# みんなで子育て親育ち！ 地域で子育ち親育て！

## 子育てHOTコーナー

### 各地域の子育て支援センターが「季節に応じた様々な行事や旬の事業」を紹介する

### 3月1日は新旭地域子育て支援センターへ

新旭地域子育て支援センターでは、毎年3月に0歳から3歳ぐらいのお子さんを対象に「あそぼ！ 0、1、2、3!!」を開催しています。【見て】【作って】【動いて】を親子で楽しめる広場です。

昨年は、ボランティアサークル「さくらんぼ」による大型紙芝居や手遊び、「ティンクル」による腹話術や南京玉すだれ、ブラックシアターなどを見せてもらいました。また、「すくすくサークル」による空き缶積みあそび、「支援センター」の大型段ボール迷路、傘袋ロケットとばし、折り紙指人形などのコーナーあそびも楽しみました。

毎年いろんな内容を考えて、楽しいひとときを親子で過ごしていただきたいと思っています。今年度は、3月1日（土）10時から、大師山さくら園ホールで行う予定です。

申し込みはいりませんので、お友達を誘って、気軽に遊びに来てください。

## 子育て奮闘中の保護者が綴るコラム

### 子育てのチョット いい話

### 私のよりどころ

私は今津に来て5年くらいになります。最初は知り合いもなく不安でした。そんな時、子育てを応援していただける場所があることを知り、上の子の時から支援室や出前ひろばを利用しています。

支援室には、家とは違った目新しい木の玩具やままごと用のおもちゃなどがあり、また子どもにとっても他のお友達がいることで、良い刺激になって喜んで遊んでくれます。出前ひろばでは、近くの集会所に行くことで、同じ団地に住む親子さんと仲良くなり、楽しい時間を過ごしています。

その中で、先生やサポーターさんにも子育ての話を聞いていただき、心が癒されています。下の子が入園するまで、これからも支援センターを利用していきたいと思っています。

**＝子育て支援センターへの問い合わせ＝**

- ●マキノ地域（マキノ児童館内）☎(27)8187
- ●今津地域（今津東保育園内）☎(22)4833
- ●朽木地域（朽木保育園内）☎(38)2070
- ●安曇川地域（古賀保育園内）☎(33)1540
- ●高島地域（高島保育園内）☎(36)0660
- ●新旭地域（大師山さくら園内）☎(25)3399



子ども虐待防止啓発標語 ②

## 「“しつけです” そんなしつけが ありますか」

（高島中学校3年 寺尾 賢人さん）

子ども虐待防止活動の一環として、本年7月に募集した標語の中から、毎月1作品をご紹介していきます。

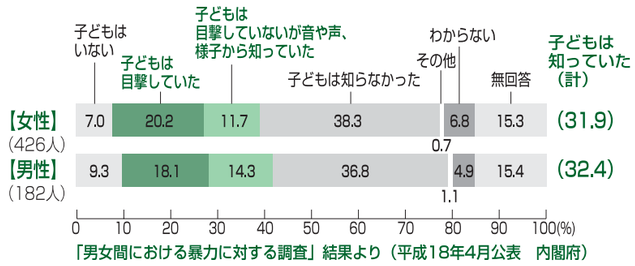
## シリーズ STOP THE 暴力 ④

# 子どもも暴力（DV）の被害者です

DVは子どもにも深刻な影響を与えます。「児童虐待の防止等に関する法律」では、家庭において子どもの面前でDVが行われることも、『児童虐待』であると定義されています。

暴力を受けたり見て育った子どもは、深く傷つき、苦しみ、心の傷を受けることになります。また、こういった子どもの多くが、情緒不安定で対人関係がうまく築けず、相手に暴力的な行動をとったり、不登校、家出、非行、自傷行為などの状態を引き起こすことがあります。

**子どもによる目撃**




「男女間における暴力に対する調査」結果より（平成18年4月公表 内閣府）

統計データからもわかるように、DV被害者の3人に1人は配偶者からの暴力を「子どもは知っていた」と認識しています。しかし、大切なことは、子どもたちがあなたの受けている暴力を知っているかどうかではなく（もちろん知っています）、彼らがそれを知ったことで、どのように影響を受けたかを知ることです。

心の傷を受けたことで苦しんでいないか？ どんな感情でいるのか？ 目の前の出来事をどう意味づけているのか？ トラウマ（心的外傷）体験をどう乗り越えるかについて、どんな教訓を学んでいるのか？

あなたと、子どものためにも、黙って我慢しないでください。まずは専門機関にご相談ください。

【参考 滋賀県子ども家庭課発行「ドメスティック・バイオレンスをなくすために」（平成19年3月）】

内閣府では配偶者からの暴力被害者支援情報サイト（http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.htm）を開設しています。

### 相談先

子ども家庭相談課 ☎(25)8517、市役所代表 ☎(25)8000
または、滋賀県中央子ども家庭相談センター【女性相談】 ☎0777(564)7867
滋賀県立男女共同参画センター【女性センター】 ☎0748(37)8739

## シリーズ 現場から ⑧

# 幼児期に育つ〝心〟を大切に

### ～幼稚園の先生からのメッセージ～

最近の子どもたちは、3歳ですでに平仮名が書けたり、ピアノ、スイミング、英語などの様々な習い事をしたり、それも2つも3つも通っていたりと驚いてしまう事があります。子どもが本当に楽しんで、体力的にも無理のない範囲だったら良いのかもしれませんが、小さいうちから「そんなに頑張らなくても…」と思うことしきりです。

3歳、4歳で、文字が書けても、色々な事が出来ても、しっかりと話すことが出来ても、心はまだまだ3歳、4歳の〝幼い心〟です。お家の人にいっぱい甘えたいし、抱っこやおんぶもまだまだして欲しいし、お話もいっぱい聞いてほしい年齢です。抱きしめられて、聞いてもらって、うなづいてもらって、そうやって自分を受け入れてもらった経験の積み重ねは、目には見えないけれど心の安定につながります。

忙しい生活の中では、十分な時間が取れないかもしれませんが、幼児期はそんな〝心〟が育つ大切な時期だという事を忘れないでください。そして、ほんの少しの間で良いので、手を止めて子どもたちの声に耳を傾けてあげてください。いっぱい抱きしめてあげてください。

（幼稚園教諭）

※シリーズ「現場から」または本ページのご意見、ご感想をファクスまたは電子メールでお寄せください。
ファクス番号は（25）5490、メールのアドレスはkodomo@city.takashima.shiga.jpです。